

旧彦根藩足軽組屋敷 ^{せり} ^{はっとり}
善利組 服部家住宅

善利組・服部家住宅は、旧芹橋 12 丁目のほぼ中央、旧大辻通りおおつじと旧中辻通りなかつじの間に位置しています。主屋は間口4 間、奥行5 間半の切妻造・棧瓦葺きりつまつくり・中2階形式で、通りに面して妻面を見せ、表に向かって下屋を架けています。

出入口は、門を入れて左に折れる平入りです。建物の平面は、主屋の表側に一部を板張りとする土間を設けて「だいどこ」とし、井戸などを併設しています。土間は天井を張らずに吹き抜けとしており、主屋の小屋組こやくみを見ることができます。土間の奥は3 畳の「げんかん」、8 畳の「ざしき」、4 畳の「おいえ」などの4 部屋で構成されています。4 部屋はやや不整形ですが、前土間型4 間取りの平面形態をとっています。

「ざしき」は床を備えて長押ながしを回しており、庭を望むことができます。庭には、かつて稲荷社いなりしゃが2 棟築かれていましたが、現存していません。また、「おいえ」の押入れの中には、2 階へ通じる階段が設けられています。

服部家住宅は、若干の改造は見られますが、江戸時代後期の善利組足軽屋敷の姿を良好に留めており、今後の善利組足軽屋敷の保存と活用に大きく寄与する歴史的建造物です。



服部家住宅外観



善利組足輕屋敷(「御城下惣絵図」部分)